

【全分掌】令和5年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和5年10月時点での成果と課題	令和5年度の成果と課題・次年度の方向性
				中間	期末	総合		
教務部	学力向上	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に課題を持つ生徒が多数入学してくる本校の状況を踏まえ、各教科で基礎基本を重視した指導の充実を促進する。</li> <li>基礎補充・基礎固め学習会・大学生教育ボランティアによる補充等を昨年に引き続き実施し、成績不振者への指導を継続する。</li> </ul>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎補充については夏休みに2回、基礎固め学習会については、1学期末考査前に実施した。2学期以降についても引き続き根気強く指導して行きたい。</li> <li>家庭学習推進週間についても、予定通り実施しているが、取り組み状況にも学年、クラスによってバラツキがあり、自主的な学習習慣の確立に向けて引き続き指導を継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎補充、基礎固め学習会については、当初の予定通り実施できた。今後も、学年・教科と連携し、引き続き根気強く指導して行きたい。</li> <li>家庭学習推進週間についても、予定通り実施できた。次年度も、定期考査を軸に学習習慣の定着を目指す方向で、引き続き指導を継続して行きたい。</li> </ul>
		学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科、学年部と連携し、家庭学習推進週間など自主的な学習を促進する取り組みを企画、実践する。</li> <li>Classi等の学習ツールの活用を促進し、教務部の取り組みの強化・充実を図る。</li> </ul>	3	3			
	授業改善	充実した授業の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員生徒相互の信頼関係を基盤に、落ち着いた規律ある学習環境づくりを促進する。</li> <li>ベル始業、授業はじめ・終わりのあいさつ、携帯電話の注意等引き続き全教職員で一致した指導を行う。</li> <li>主体的に学習する態度を育成する指導についての研究を進める。</li> </ul>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業については、概ね落ち着いた雰囲気のもと実施できている。今後も全教職員の一致した指導の下規律ある学習環境づくりを継続する。</li> <li>6月に公開授業週間を実施した。2学期にも公開授業週間・授業アンケートの実施を予定しており、夏休みに行われた教育課程研究協議会の内容を踏まえて、教科内で交流する予定である。</li> <li>教職員の授業等でのタブレット等の使用についても徐々に浸透してきており、今後さらにICT教育の推進を図って行きたい。</li> <li>観点別評価については、大きな混乱はなく実施されているが、今後よりよい評価の確立に向けて他校の状況等も参考に研究を深めて行きたい。</li> <li>総探担当者会議を予定通り実施できている。担当者の協力も得ながら、城陽高校の探究を創って行きたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業については、概ね落ち着いた雰囲気のもと実施できている。今後も全教職員の一致した指導の下規律ある学習環境づくりを継続する。</li> <li>教科の指導力向上については、公開授業週間・授業アンケート・教科内での授業交流など、予定どおり実施することができた。授業アンケートについては次年度より授業の改善につながる実施形態を模索したい。</li> <li>教職員の授業等でのタブレットの使用についても徐々に浸透してきているが、教科等にも使用状況に差があり、今後さらにICT教育の推進を図って行きたい。</li> <li>本年度からスタートした2年生探究においては、総探担当者会議を母体とし、しっかり運営できた。次年度に向けて、担当者の負担を少なく、充実した探究が実施できるよう、今後さらに研究を深めて行きたい。</li> </ul>
		教科の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学び、行動する生徒の育成を目指し、学習に対するモチベーションの向上を目指す。</li> <li>公開授業、授業アンケート、教科内交流等を実施し、指導内容、指導方法の工夫改善を促進する。</li> <li>授業公開等を企画し、電子黒板、タブレット等のICT機器や、Classi、ロイロノート等の学習ツールの活用を促進する。</li> </ul>	3	3			
		新指導要領への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度から実施している観点別評価について、生徒の実態に則して適切な評価となるよう各教科と連携し改善を進める。</li> <li>本年度から本格的に実施される総合的な探究の時間の実施に伴い、担当者との調整を図り適切な運営に務める。</li> </ul>	3	3			
	図書館教育	読書内容の深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>活字離れとマンガ中心の利用が多い現状を考え、広報活動などを通じて、活字主体の図書の利用を増やす。年間の貸出冊数の35%を活字主体の図書とすることを旨とする。（昨年度26%）</li> </ul>	4	4	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝のSHRでの読書や夏休みの読書に関わる課題があったこともあって、活字主体の図書の貸出は45%となっている。今後も教科やHRと協力して読書を推進して行きたい。</li> <li>「教職員向け図書館だより」は2回発行したが、反応は今ひとつであった。内容の見直しが必要であろう。総探で図書館の利用は様々あったが担当者との連携が不十分な面もあった。コピー機の導入は事務部と交渉しているが難しそうだ。</li> <li>生徒の意見を取り入れた委員会活動を心がけたが、今年の図書委員からは積極的な提言は今のところ少ない。ビデオ上映会の実施、ビブリオバトルの積極的な取組は評価してもいいだろう。秋の読書週間に向けて図書委員と適時、意見交換をして行きたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期以降プログレッシブコースの学級を中心に教科の先生方が読書を薦めてくれたおかげで、活字主体の読書は48%まで伸びた。今後も読解力をつけさせて学力向上に資するためにも活字に触れるように指導して行きたい。</li> <li>教職員への情報発信はやはり少なかったように思う。教科での図書館利用は昨年より、減少している。タブレットの生徒への導入も影響していると思うが、タブレットと図書館資料の両方を上手に使い分けて学習効果の上がるような提案をしていく必要があると思う。</li> <li>図書委員会では、広報活動はポスター以外はこれといったことができなかつたが、古本交換会の陳列やクリスマスの飾り付け、3学期のくまモン飾り付けでオリジナリティ溢れる取組が見られた。来年度も生徒の主体性を活かした図書委員会運営を心がけたい。</li> </ul>
		教科・分掌との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>「教職員向け図書館だより」の発行などで学校図書館の存在意義についての情報発信を行いながら、各教科・学年・分掌などと連携し、図書館利用を通じて生徒の基本的な情報検索・活用能力を養う。環境整備面ではコピー機の導入を考える。</li> </ul>	2	2			
		図書委員会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の意見を取り入れながら読書週間などのさらなる活性化を図る。また、昨年度以上の宣伝活動ができるように、広報組織の見直しを行う。</li> </ul>	3	3			

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和5年10月時点での成果と課題	令和5年度の成果と課題・次年度の方向性
				中間	期末	総合		
生徒指導部	基本的生活習慣	生徒が学校に軸足を置いた生活が送れるように、さまざまな指導を全教職員で連携して行う。	・各学年・各教科と連携し、全教職員で生活面での指導を行う。特に、遅刻については各担任と連携を取ることで、早期に指導し、遅刻の回数が10回を越える生徒がでないようにする。	3	3	3		・遅刻や生徒指導の際は注意で終わるのではなく、丁寧な指導を心がけている。なかなか成果に結びつかないこともあるが、多くの生徒は反省をし繰り返さないよう学校生活を送っている。今後も継続して丁寧に指導をしていく。
			・登校指導、下校指導を城陽警察や地域ボランティアとともに行うことで登下校マナーを徹底するとともに、登下校中の事故（特に自転車事故）を少なくできるようにする。	3	3			
			・授業開始時の規律を確保するとともに、携帯電話等についてのルールを定期的に確認し、携帯電話等に関わる指導を減少させる。	2	2			
	特別活動	部活動・生徒会活動・ボランティア活動を活性化させる。	・全クラブで挨拶、礼儀、掃除活動などを行うことで活性化を図る。また、学校行事において部活動員が積極的に参加することにより、学校運営の柱となれるようにする。	3	3	2		・部活動加入率は低いですが、活動している生徒はひたむきに取り組んでいる。学校行事の際には、率先して手伝いや準備片付けをしてきている。 ・生徒会は生徒が主体的に活動できるサポートをしていく必要がある。委員会活動でも、新たな取り組み等をして学校の活性化につなげたい。
			・1年生部活動一斉加入では、未活動者がでないように各部活動で継続的な指導を行い、生徒が活動できる場を提供する。未活動者については学期ごとに活動状況を把握し、指導を行う。また、2・3年生についても3年間継続できるような指導を行う。	3	2			
			・生徒会活動を中心にして、各委員会やボランティア活動を活性化し、地域に親しまれる学校となれるように積極的に広報活動を行う。また、各行事においても中心となり、学校運営の柱となれるようにする。	2	2			
	いじめの防止	いじめの定義について全教職員で把握し、いじめに対して早期に対応できるようにする。	・職員会議等でいじめの定義について周知し、生徒について情報共有や教員間お連携を行うことで早期に対応できるようにする。	3	3	3		・年度当初に職員会議でいじめの定義について確認、共有した。 ・いじめ調査において、第1回また第2回と集計後いじめ対策委員会を開くことで、情報を共有することができた。 ・来年度も組織として速やかに対応できるように学年部や関係機関と連携を取り続けていきたい。
			・いじめ対策委員会を開くことで、情報の共有を密にし、組織でいじめに対して対応できるようにする。	3	3			
	人権教育	学年や分掌・教科と連携しながら、さまざまな人権問題について学習を深め、人権尊重の実践的態度を育む。	・3年間を見通した系統的な人権学習を計画し、実行する。	4	4	4		・人権だよりを18号発行し、継続して教職員にフィードバックを行った。今年度も大きな変更もなく計画通りに実施することができた。
			・「人権教育だより」の発行を通して、人権教育をすべての教職員にフィードバックする。	4	4			
進路指導部	キャリア教育の推進および希望進路の実現	生徒の進路に対する意識を高め、希望進路の実現に向けた意欲と学力を向上させるとともに、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。	・キャリア教育実施計画に基づいて進路学習を充実させ、家庭・地域との連携を柱とした「TAG城陽」の取組を推進する。また、就職の複数応募制度や新学習指導要領に対応した新入試への研究を深める。	2	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育実施計画に基づき、進路学習を実施した。就職の複数応募制度を活用した生徒は一次応募の時点でいなかった。新学習指導要領に対応した新入試への研究については継続して取り組んでいく。</li> <li>・生徒の進路希望に合わせて就職補講や進学補講、業者模試を実施した。情報収集能力や進路選択における主体性をより高めていく指導が求められている。</li> <li>・教育プラットフォーム「Classi」やWebサービス「マナビジョン」「Compass」を活用し、進路希望や業者模試の結果等を学年部と即時的に共有することができた。カウンセリングの機能をより充実させ、質の高い進路指導を実践していく必要がある。</li> </ul>	
			・就職補講や進学補講、業者模試等を積極的に実施し、生徒が自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。	3	3			
			・「進路のしおり」の充実を図り、各種説明会を実施することで最新の進路情報を適切に提供するとともに、学年部と連携し生徒とのカウンセリングの機能を高める。また、ICT機器を活用した進路指導を推進する。	3	3			

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和5年10月時点での成果と課題	令和5年度の成果と課題・次年度の方向性
				中間	期末	総合		
保健部	保健管理	生徒の理解（教育相談）と支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断や健康相談を実施し、生徒の健康状態の把握と指導に努める。</li> <li>担任や教科担当者と生徒の情報を共有し、教育相談会議を通して、支援につなげる。</li> <li>特別支援教育の視点を活かし、支援対象生徒の把握と支援に努める。</li> </ul>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月に健康診断を実施し、定期考査ごとに教育相談会議を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月に健康診断を実施し、12月以降に持久走やロードレース大会に向けての健康相談を実施した。</li> <li>定期考査ごとに教育相談会議を開催し、配慮の必要な生徒について学校として支援できた。</li> <li>考査支援が必要な生徒に対して、先生方の理解と協力を得て、適切な支援を実施することができた。</li> </ul>
	校内研修	教職員の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセリングをテーマとした校内研修会を実施することで、生徒理解における教職員の指導力向上を目指す。</li> </ul>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月にスクールカウンセラーの村澤先生による講演を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カウンセラーの村澤先生に講演していただき、スクールカウンセリングの現状と本校生徒の特徴について学ぶことができた。</li> </ul>
	安全管理	校内美化・環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健委員会の活動の一環として校内美化に取り組み、各学期に1回は校内美化の活動を行う。</li> </ul>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健委員会の活動として、1学期は健康診断の準備とHR教室の清掃点検を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健委員の活動として前期と後期に清掃点検を行い、校内美化に努めた。</li> </ul>
総務企画部	外部評価	学校評価アンケート等の実施手段のICT化に係る回答数確保	保護者等対象アンケートの実施について、「PTAお知らせメール」及びClassi上での周知のみならず、2学期末の文書通知により、回答数の増加を目指す。	/	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年1月に実施予定。2年前から紙媒体の使用をやめてICT化を図っているが、回答数の少なさが大きな課題。そこで今回は2学期通知表の発送時にアンケート協力依頼の文書を同封していただくとともに、PTAお知らせメールやClassiも併用し、より強く保護者等に働きかけたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート回答への依頼文を2学期通知表の発送に同封するとともに、二学期終業式と三学期始業式の日に、Classi及びPTAお知らせメールにて回答依頼を配信したところ、回答は281件と、昨年度の176件よりは増加した。ただし、紙媒体で実施していた頃の500件程度には満たず、回答数の確保は、引き続きの課題である。</li> </ul>
	家庭・地域社会との連携	PTA、各種関係機関との連携、協力を進めるとともにコロナ禍の中で確立した連絡手段を活用した運営に努める。	PTA諸会議の運営に係る打ち合わせ等について、夜間の会合を精選するとともにSNSによる連絡手段の活用などを行い、PTA役員等のより効率的な連携に努める。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍を機に始まった文化祭における生徒支援授業は今年度も実施し、好評であった。また、本部役員の負担軽減を視野に入れた会合の精選等、時代に対応した事業運営が出来ているところである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本部役員の負担軽減を視野に入れた会合の精選等、時代に対応した事業運営が出来ているところである。</li> <li>昨年度に要望のあった、社会見学の実施時期見直し等は検討したが、催事の実施時期については現状を維持する方向である。</li> </ul>
	広報	地域及び次年度生徒募集に資する広報活動を行う。	「進化から深化へ」のスローガンに基づき、より訴求力のある情報発信に努めるとともに、「深化」していく本校の姿を山城管内中学校・保護者等・学習塾等に広くアピールしていくことを目指す。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は「進化から深化へ」のスローガンを揮毫することにより、さまざまな広報媒体に、より訴求力を持たせることが出来ていると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会等の中学生・保護者対象行事の参加申込については、申込者が申込内容を確認することが出来る自動返信メール機能の導入により、申込確認の電話はかなり減少した。</li> <li>「生徒の主体的な活動」を中心した広報活動については、一定の成果はあったが、次年度の学校紹介動画制作や広報活動を担ってくれる生徒スタッフの確保は今後一層重要になってくると考える。</li> <li>ホームページの「小まめな更新」は維持できていると考えるが、生徒によるネット広報が実現できると、広報としての効果はさらに高まるのではないだろうか。</li> <li>今年度については生徒募集の結果が芳しくなかったことは残念に思う。広報のみならず、学校全体としての魅力度を高めていく必要があるのではないだろうか。</li> </ul>
			広報活動全般について、「生徒の主体的な活動」を中心とした展開に努める。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は年度当初の早い段階に於いて、広報を担ってくれる生徒を募った結果、学校説明会等の場面に於いて生徒から主体的なアピールを引き出すことが出来ていることは大きな成果だと考える。また、中学生対象諸行事のWeb申込フォームに自動返信メール機能を導入することに成功したことも、校内では目に見えないことではあるが、大きな成果だと考える。</li> </ul>	
			公式HP運営に当たっては、外部に向けた広報機能の堅持とともに、月間行事予定等、学校関係者にとっての有用な情報提供を目指し、小まめな更新を心がける。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「小まめな更新」については、たえず意識しているところではあるが、部活動の様子等、より中学生が知りたがっている情報を発信することができればさらに良いと考える</li> </ul>	
国際理解教育	国際理解教育講座の円滑な企画運営	年間LHR計画の中に国際理解教育講座を位置づけ、より生徒が興味・関心をもって学習することができる内容を企画する。	/	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都府知事直轄組織国際課「京都府名誉友好大使事業」の活用により、令和6年1月10日に1・2年生対象に実施することを計画しているところである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画性をもって、令和6年1月10日に1・2年生を対象に実施することが出来た。</li> <li>今後、Classi等の活用により、招聘する講師の方のプロフィールや講義内容等について、生徒が事前に「予習」することができるような工夫も考えられる。</li> </ul>	

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和5年10月時点での成果と課題	令和5年度の成果と課題・次年度の方向性
				中間	期末	総合		
第1学年部	生徒指導 特別活動	ルールを遵守させる。 行事、部活動への積極的参加を促す。	関係分掌及び家庭と連携し、日常的に細やかな指導を行う。	3	3	3	・概ね達成できているが、長欠及び欠席増加傾向にある生徒が一定数存在している。家庭と連携しながら今後の方向性を見いだしたい。	・人間関係に端を発する事案が散見されたが、分掌、家庭と連携し一定の解決をみた。身だしなみ、タブレットの使用に関して指導した生徒が多くいた。
	進路指導	進路目標を早期に設定させる。 文理選択を適切に行わせる。	進路指導部の計画に沿ったキャリア教育を進めながら、小まめな面談を行い個に応じた指導を行う。	3	3	3	・計画的な進路指導を行いつつある状態である。	・具体的方策に挙げた取り組みを行うことができた。特に3学期に実施した分野別説明会は有益であった。
	学習指導	成績不振科目を保持させない。	教科担当者と連携をとりながら学習習慣を定着させる。	2	2	2	・授業に出席しながら成績不振科目を保持する生徒は少ないが、2学期以降に緩む傾向があるので、今後も丁寧且つ厳しい指導を継続したい。	・学年末を迎えていないので最終的な状況は不透明であるが、不認定科目をもつ生徒は一定数存在することが予想される。
第2学年部	学習指導 進路指導	進路実現のために、自らの進路について考えさせ、その実現のための学力向上に必要な力を身に付けさせる。	新課程での初年度入試に備え、受験に向けての情報収集や教科・科目の内容等について、各分掌・教科と連携し、コース・科目登録に対応させる。 丁寧な進路指導を行い、早期に進路目標またはそれに値するものを持たせ、進路実現に向けた具体的な見通しを立たせる。	2	3	2	・新課程入試についての情報がまとめきれていない状況下で、数学Cについて教育課程の変更を認めていただけたことは良かった。まだまだ生徒は進路について考えきれてはいないので、継続的なアプローチの必要性を痛感している。	・3学期に入って「進路」に関する取り組みを通じて主流となる「年内入試」への意識付けを始めたところであるが、まだまだ自分のこととして捉えきれていない生徒が多数いる。今後も継続的に進路部と連携して意識をもたせたい。
		「総合的な探究の時間」の学習を通じて、問題解決に必要な力を身に付けさせる。	生徒が自己の在り方や生き方を考えながら、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。	3	3	3	・総合的な探究の時間に関しては、生徒は与えられた課題にはそれなりに楽しそうに取り組んでいる。指導立案者からのレクチャーもしっかりしていて、1学期は大きな問題なく取り組めた。2学期は課題を見つけることになるため、ハードルが上がるが生徒の取り組み方に期待したい。	・「課題発見」、「問いを考える」ことの難しさに直面したようだ。この経験が生かせるように指導を継続していきたい。
	生徒指導	規律、規則の重要性を理解し、自ら考え、集団を意識しながら行動できる力を身に付けさせる。	様々なルールをただ守らせるのではなく、理由を理解させようでの継続指導をおこなう。適切な場面で、「人権尊重の考え方」に触れ、人権意識を高める。	2	3	3	・身だしなみや遅刻等、自分本位の考えや甘さが残っているため「反省文」等の指導回数は減少していない。粘り強く継続的に指導していく。	・寒さが増してきたことで、「遅刻」の回数が増加しているが、学校生活全般においては少し落ち着きが見られている。引き続き人間関係等に注視していきたい。
	特別活動	学校行事、部活動を通しての人間形成	部活動や学校行事を通して、生徒一人一人の自己有用感を高め、「城陽高校への思い」のこもった良好な学校生活の基盤を作る。	3	3	3	・校外学習や文化祭が終わったが、大きな問題もなくそれなりに生徒が対応したようである。	・研修旅行も終わり、特に大きな問題もなく生徒が少し成長したように思われる。
第3学年部	特別活動 生徒指導	最高学年として、下級生の模範となる行動を実践できるように心掛けさせる。	・主体性や思考力、協調性の成長を促すため、生徒自身に考えさせ、行動させる機会を積極的に与えていく。 ・各分掌や関係機関と連携して進学や就職に向けた適切な指導を行う。また、教科担当者と連携を取り、普段の授業を大切にさせる。	3	3	3	・学校行事を通して、生徒自身が考え、行動する機会を十分に与えられたと思われる。最高学年としての自覚を持たせる声掛けや指導は継続して行っていく。	・年度末に近付くにつれ、欠席をする生徒は増えてきたが、頭髪や服装で大きな乱れはなく、生徒自身が規律を守ることにについて考えられるようになったと思われる。
	進路指導 学習指導	熟考した上での進路の実現に向けて努力を重ねられるように、進路指導を行う。	・特に進路部と協力し、安易な進路決定をさせず、具体的な目標を生徒に持たせられるような丁寧な指導を行う。	3	4			
			・学年全体で進路実現に向けた行動を取ることができる雰囲気や環境を作る。	2	3			
事務部	渉外	学校と住民・来校者等をつなぐための、迅速で適切な窓口対応、電話対応を行う。	学校行事、校時、教職員の動向の把握に努め、事務室内で情報共有する。	3	3	3	・事務室内のホワイトボードの活用により、行事予定や教職員の動静等の情報共有も定着し、来客対応、電話対応ともにおおむね良好である。	同左
			来校者の目的・用務先等を正確かつ丁寧に把握し、来校者が円滑に目的を果たせるよう努める。	3	3			
	就学援助	生徒と保護者が安心して教育を受けられることのできるための経済的支援体制の充実に貢献する。	就学支援金や奨学金などの各種援護制度について、生徒と保護者へ周知が図れるようClassiやホームページの活用をより進める。	3	3	3	・援護制度の周知のために、Classiなどの活用をさらに充実させたい。	同左
			生徒に不利益が生じないように、状況に応じて学級担任や他分掌との連携を密にする。	3	3			
	施設設備	安心安全な学校の環境整備に向けて最善を尽くす。 ICT環境野整備を図る。	状況改善のための迅速な対応に努め、生徒や保護者に向けた報告等を心がける。	2学期以降に施工予定の教室等の空調機器更新工事について、生徒・保護者に概要を伝達するとともに、安全かつ迅速に工事が進行するよう努める。	3	3	3	・限られた予算で修繕や改修に努めているが、優先案件の判断、計画の検討については予算上の制約を受けることとなるため、予算確保が課題となっている。
ICT環境整備に向けて関係分掌との連携を図り、機器の整備に努める。			3		3	3	・教職員用機器等の更新、整備に係る計画や必要性について検討していく。今後は、新規整備よりも更新・維持のための予算確保と計画が課題となる。	同左